



ヨロン島の自然を守り
安全に観光を楽しむための

ヨロン島 海と陸の アクティビティ ガイドライン

このガイドラインは、ヨロン島の海と陸の

環境保全と責任ある観光行動による持続可能な観光地域づくりを
目指す一環として、観光事業者と観光客を対象に、与論島を安全で
快適に楽しむために気をつけていただきたいこと・
守っていただきたいことをお伝えするものです。

一般社団法人 ヨロン島観光協会

YORON ISLAND ACTIVITY GUIDELINES



海の アクティビティ ガイドライン



海の観光事業者と観光客に 気をつけていただきたいこと・ 守っていただきたいこと(共通事項)

- 海の生き物は取らない、傷つけない、持ち帰らない。
- 乗船中や体験中に出たゴミは持ち帰る。
- クラゲなどの危険生物に刺された場合の対処法について事前に調べておく。
- 漁港などの駐車場利用も漁業関係者に配慮し悪影響を与えない。
- 各アクティビティで決められている基準、ルールやマナーを遵守する。
- 海に入るアクティビティや体験は小型船舶乗船時にライフジャケットを常時着用する。
- 体験開始前にお客様の技量に合わせてシュノーケル使用法などの講習を必ず行う。体験参加が不可と判断される場合は不参加、又は参加可能な別メニューを勧める。
- 参加者の健康チェックを十分に行い、二日酔いや飲酒後などの適さない体調の方は、アクティビティへの参加をご遠慮いただく。
- 体験に参加する際は緊急連絡先を登録する。
- 遭難、海難事故に備えてケイタイのGPSはonに設定する。



海の観光事業者に 気をつけていただきたいこと・ 守っていただきたいこと

- 救急救命講習を定期的に受講し、体験に必要な資格・技術・免許等を必ず有する。
- 必要な保険に加入する。
- お客様を常に目視出来る範囲内でガイドを行い、安全・安心の管理を徹底する。
- 車検、船検を必ず期限内に受け、車や船舶の定員などの法令を遵守する。
- 海洋状況や天候の他、ガイドやお客様の体調変化に迅速に対応し常に安全を確保する。
- 通信可能な携帯電話や無線などを常に確保する。
- 他の事業者と連携を取り安全対策の相乗効果をはかる。
- 利用場所が漁港や漁場に関わる場合または近い場合は魚漁者や漁協に確認を取る。
- 荒天予報時等、事前に判断出来る場合は早めに告知しておく。
※危険性は勿論、お客様の想像と違う事を伝え、少しでも不安があれば勇気を持って中止にする。
- 港内、航路、ゲスト乗船中の船舶のすれ違い時や、他店ゲスト乗船中の船舶付近の通過時や、入水者がいる場合、引波による影響を考慮し最徐行を行う。

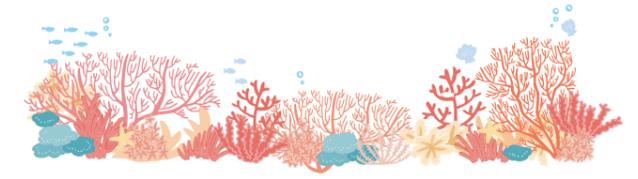


- 港内や入出港時および航路航行中は、右側通行を徹底する。また、すれ違い時の右側回避や入出港時の出港側優先を徹底する。
- 小回りが効く動力船が、大型船や人力船等は回避して、相手を優先させる。
- 沖合いの停泊船付近の通過時においても、徐行または回避して航行することを心掛ける。
- 港は公共の場である事を認識する。事業者が使用した器具、器材等は、営業開始時に持ち込み、営業時間後は全て持ち帰る。ゲストサービスに使用する用具類の常設を行わない。
- 船舶を使用するアクティビティの開催時は、プロペラ巻き込み事故の防止のため機関をニュートラルの状態で行う。必要に応じて、アンカー等で係留を行ったうえで、アクティビティを開催する。



その他の海の体験、観察ツアーで 気をつけていただきたいこと・ 守っていただきたいこと

- 必要なレクチャーは必ず事前に行うこと。
- 観察した生き物は生きた状態で海へ返すこと。
- 観察等で見る・触れるなどの行為は、ガイドがしっかり指導、引率すること。



- 必要な機材の使用について事前チェックを必ず行うこと。
- 観察等で、サンゴや他の生き物を傷つけないこと。

緊急時の連絡先

- 急病や大怪我、火事 : 消防本部(119番)
- 交通事故や事件 : 鹿児島県警(110番)
- 海難事故など海の事故 : 第10管区海上保安本部(118番)
- 救助船の要請 : 与論町役場(0997-97-3111)、
与論町漁業協同組合(0997-97-2221)
- 空からの救助要請 : 名瀬海上保安部(0997-53-9999)

病院、診療所

- ・与論徳洲会病院 : 0997-97-2511
- ・パナウル診療所 : 0997-84-3330
- ・龍美クリニック : 0997-97-5607

その他のお問い合わせ先

- ・一般社団法人ヨロン島観光協会 : 0997-97-5151
- ・与論町役場 商工観光課 : 0997-97-4902

作成 一般社団法人ヨロン島観光協会
〒891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花 33-1
TEL:0997-97-5151

協力 与論町役場、マリン事業者組合、ヨロンダイビング組合、
ゆんぬツーリズム推進協議会、エコツアーガイド連絡協議会

ヨロン島
観光ガイド



マリン事業者
紹介



マリン事業者
自主ルール





陸のアクティビティ のガイドライン



陸のガイドや観光事業者に 気をつけていただきたいこと・ 守っていただきたいこと

ヨロン島内の観光全般で守っていただきたいこと

島内の観光は自己責任で

ヨロン島内には、崖などの危険な場所やハチなどの有毒な生物、肌に触れるとかぶれる植物などがあちこちにある一方で、医療機関が少なく、万が一の際、携帯電話が繋がらない場所もあります。

ごみは持ち帰る

島内を観光する際、自分が持ってきたものには責任を持ちましょう。特に生ごみは野良猫などの餌付けにもつながり、プラスチックや金属類などは分解されずに地中に残ってしまいます。



火を使わない

キャンプ場等の許可された場所以外での焚き火やタバコのポイ捨てはやめましょう。山火事の原因になります。



舗装されていない場所にむやみに車両やバイクで 乗り入れない

乗り入れた先に道はなく、ぬかるみや段差、道幅が狭くなる場合も多いので危険です。農地や私有地に続く道の可能性もありますので、未舗装路への乗り入れにはご注意ください。

動植物をとらない

動植物をとったり踏みつけたり、トラップを設置したりすることはやめましょう。少しだけなら大丈夫という気持ちは禁物です。

ヨロン島
観光ガイド



エコツアーガイド
紹介



エコツアーガイド
自主ルール



動植物を持ち込まない

ヨロン島にいない生き物(外来種)やペットを捨てないようにしましょう。かわいいペットも野外に放たれると、ヨロン島に生息する動植物の捕食者になってしまいます。また、外来種は生態系のバランスを崩す恐れがあります。



町なかやお店に適した服装で観光する

ヨロン島内の町なかやお店は、島に住んでいる多くの人も利用する日常的な生活空間です。濡れたままの服装や水着のまま歩いたり、お店に入ったりすることはご遠慮ください。

集落の観光で気をつけていただきたいこと

住民の暮らしとプライバシーへの配慮

ヨロン島には、島に住む人の暮らしととても近い観光地が多くあります。住民の暮らしとプライバシーに配慮して観光を楽しみましょう。

迷惑行為はしない

島内の集落は、多くの人が生活している場所です。大きな声や音を出すと近くに住民の方々の迷惑になる場合があります。大音量でのカーステレオの使用や、花火など音が出るもの、ドリフト走行などはやめましょう。



民家への立ち入りや覗き見はしない

集落散策や民家周辺で撮影を行う場合は、住民のプライバシーに配慮しましょう。公民館などは、住民の暮らしや活動のために管理されている施設ですので利用の際は管理者に許可を得てください。また、民家だけでなく、集落から離れた農地などへの立ち入りにもご注意ください。



島内の神聖な場所には敬意を払う

ヨロン島には、島の人たちが大切にしている神聖な場所(墓地、風葬跡地、拝所*など)があり、多くが分かりづらく私有地です。神聖な場所での無遠慮な見学や写真撮影等は控えましょう。神聖な場所の散策には、エコツアーガイドのご利用をお勧めします。*拝所は、特定の樹木や岩であることのみならず、見晴らしの良い丘や海岸の一部などにもあります。



地元の住民には「お邪魔します」の気持ちで

挨拶をきっかけに会話も弾み、観光がより思い出深いものになるはず。道を尋ねるときも同様です。集落を案内するエコツアーガイドのいる場所もあるので、是非、ご利用ください。



島内の交通で気をつけていただきたいこと

島内の道路では自動車の速度を落とす

島内には細かな脇道も多く、それらは農作業など仕事で使う道でもあり、高齢者のシニアカー(右側通行)なども走るヨロン島の暮らしの道です。島内の道路を通るときは、自動車の速度を落としてヨロン島の生活の風景を感じながら安全で快適な運転をお願いします。



車は交通の迷惑にならない場所に停める

ヨロン島内には、駐車場と間違えそうな私有地や集落で管理している土地もあります。駐車する際には近くに住民の方に確認を下さい。また、島内の道は狭い道も多いため、路上に駐車すると住民の通行の妨げになり危険です。アイドリングもやめましょう。

島の名勝・史跡で気をつけていただきたいこと

構造物には登らないようにしましょう

ヨロン島には、先人の方々が作り上げ現在まで引き継がれてきた多くの屋敷跡や城跡、井戸などがあり、これらは一見すると頑丈に見えても、長年の劣化や植物の影響で、脆く、崩れる危険性があるため、通り道になっている通路を使い、石垣や井戸などの構造物の上に乗ったり、寄りかかったりすることは避けましょう。

名勝や史跡内の物品(遺物)は拾わないようにしましょう

ヨロン島には、先人の方々が生きてきた痕跡である道具や、食べた後の貝、時にはお墓の近くから流れてきた先人の骨が落ちていたりします。これらは地域にとって大切な文化財だったり、神聖な場所にあったお供え物の一部かもしれません。アンティークを集めるように無暗に落ちている物品を拾い持ち帰ることはやめましょう。

陸のガイドや観光事業者に 気をつけていただきたいこと・ 守っていただきたいこと(共通事項)

- ヨロン島で観光ガイドをする際に、島の自然や歴史、文化などを守り、育むための基本的な知識や考えにもとづきお客様をご案内する。
- 写真や資料を使いながら、自然環境の保護保全、集落住民への配慮のもと、地元行政や関係団体と連携しながら、持続的な観光による地域の振興を目指す。

